

研究紀要

研究主題

「思い」を生かして、生き生きと表現する児童の育成 ～自己肯定感を高める活動を基盤として、児童の主体性を伸ばす授業の実践～



あいさつ

上尾市教育委員会 教育長 西倉 剛



原市南小学校におかれましては、令和5・6年度上尾市教育委員会の委嘱を受け、「『思い』を生かして、生き生きと表現する児童の育成～自己肯定感を高める活動を基盤として、児童の主体性を伸ばす授業の実践～」を研究テーマに掲げ、図画工作科の研究に取り組まれました。このたび、2か年の研究の成果を発表されますことに心から敬意を表します。

さて、小学校学習指導要領解説図画工作編では、目標の一つとして「造形的なよさや美しさ、表現したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をしたり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。」と示されておりま

す。このような中、本校におかれましては、児童の「やりたい」という思いを引き出す実践事例を積み重ねたレシピ集を作成し、授業の導入を工夫されました。また、美術鑑賞を朝活動の一つとして位置づけ、教師がファシリテーターとなり、対話を通して、児童の表現力の向上を図られました。

これらの研究は、児童の表現力や主体性の育成につながるものであり、本市の図画工作科における学習指導の充実に寄与するものと期待しております。

結びに、御指導を賜りました指導者の方々、御支援をいただきました保護者・地域の皆様に厚くお礼申し上げます。また、小高校長先生をはじめ教職員の皆様の熱心な研究への取組に対し感謝申し上げますとともに、原市南小学校のますますの発展を祈念し、挨拶いたします。

あいさつ

上尾市立原市南小学校 校長 小高 達也



本校は、上尾市教育委員会から令和5・6年度の2年間の研究委嘱を受け、研究主題を「『思い』を生かして、生き生きと表現する児童の育成」、副主題を「自己肯定感を高める活動を基盤として、児童の主体性を伸ばす授業の実践」として研究を進めてまいりました。

本研究では、図画工作科で育成を目指す資質・能力の三つの柱をバランスよく育てるとともに、児童が表現活動を通じて、自分の思いに気づき、思いを生かして活動できるよう、導入や学習環境の工夫、対話が生まれる工夫など、全教職員で研究に取り組んでまいりました。

また、「朝鑑賞」に取り組み、絵画の鑑賞を通じて、気づきや思いを交流する時間を取り入れてまいりました。

2年間の成果として、柔軟な方略や自己効力感、主体性の高まりが感じられるとともに、指導や学習環境を工夫したことにより、自分の考えを安心して絵画や立体、言葉で表現することの楽しさを味わえる児童が増えたと考えています。

結びに、本校の研究推進に当たりまして、ご指導いただきました

皆様にご心より感謝申し上げますとともに、今後とも一層のご指導を賜りますようお願い申し上げます。挨拶いたします。

研究の成果とまとめ

成果

教師

- ・校内授業研究会を通して、互いの授業を見合うことで、授業力向上と授業改善に繋がった。また、授業への意識改革が図られ、研究前は作品主義的な指導傾向が強かった職員の意識が、児童一人一人の造形的な見方・考え方を認め、変容していくよさを積極的に評価することができるようになった。
- ・指導者や外部講師による研修やすま研修（実技研修）を行ったことで、思いに気づく導入や対話が生まれる場の設定等、日々の授業改善を進めることができた。
- ・朝鑑賞で児童と対話する時間を積み重ねたことにより、児童理解が深まった。また、児童の考えを引き出すための発問や切り返し、共感する言葉を意識的に使う場面が増えた。

児童

- ・「図工の授業が好き!」「早くやりたい!」と待ちわびる姿が見られるようになった。また、夢になって活動に取り組む姿が多くみられた。
- ・形や色などを豊かに捉え、自分のイメージをもって表現したり鑑賞したりする児童が増えた。一人一人の思いが込められた作品を大切にしようとする発言が多くみられるようになった。
- ・自分の感じたことや考えたことを豊かに表現しようとする児童が増えた。また、友達の考えに真剣に耳を傾けようとする姿がみられるようになった。
- ・朝鑑賞を通して、互いの感じ方の違いに気づき、自分と異なる友達の良いところを認め合う姿が多くみられるようになった。

課題

教師

- ・授業改善をさらに進めていくために、児童の考えを引き出す発問や切り返し、共感する言葉について、分類整理していくことが課題である。
- ・児童に表現させたり、構想させたりするためには、教師が児童への関わり方を具体的に研究する必要がある。
- ・図画工作科で児童が身に付けた力を、他教科の学びの充実につなげていくことができるよう、研究を深めていく必要がある。
- ・児童に豊かな表現をさせるためには、家庭や地域との協力体制を強化し、材料を集める必要がある。

児童

- ・自分の表現したことから、さらに新たなことを思い付いて試したり、描き加えたりする活動では、個人差が見られた。
- ・高学年では、何を表したいのか? 「自分が表したいこと」を「どのように主題に表すか」まで高めるためには、教師の支援を多く要した。
- ・限られた時間の中で、自己調整しながら活動することに難しさを感じている児童が見られた。自分の表したいことに合わせて、試行錯誤し、納得解を見いだすことができるような力を育む必要がある。

ご指導いただいた先生方・研究に携わった職員

令和6年11月22日(金)



上尾市立原市南小学校

〒362-0021 埼玉県上尾市大字原市3990番地
電話 048(722)2100
FAX 048(721)9397

